

「語彙習得研究の目指すもの」

石井 友子

研究分野概要

第二言語習得研究において、語彙習得は1990年代より大きな関心を集め、その研究成果は言語教育現場に様々な形で貢献をしてきた。英語教育に関して言えば、最大の貢献とも言える研究成果は、「どの語を学ぶことが一番有益か」という問いに答えることができたことである。英語母語話者が知っていると言われる2万語全てを学ぶことは、一般的な英語学習者にとって現実的な学習目標ではない。本発表では、約4000語の知識があれば、新聞や小説など様々なジャンルの読み物に使用される単語のうち98%をカバーできることなどを紹介した。これは、90年代後半以降のコンピュータの大衆化に伴って明らかにされてきたことである。この「何（どの語彙）を学ぶべきか」という問いの他に、語彙習得研究は「どのように学ぶべきか」また、知識が「どのように貯えられるのか」、その知識を「どのように測定するべきか」等の多岐に渡る問いに答えるものであることを概観した。

意味的関連性の記憶への影響

数多ある語彙習得研究における問いの中で、「どのように学ぶべきか」に関連し、「意味的に関連する複数の単語を同時に学ぶと記憶が阻害される」という90年代後半より提唱されてきた命題を検証する研究を紹介した。Tinkham (1993; 1997) や Waring (1997) は、以下のような単語群の学習効率を検証し、意味的関連性は記憶に不利に働くということを示した。

語群1（意味的関連性あり）：*shirt, jacket, sweater*

語群2（意味的関連性なし）：*rain, car, frog*

この命題は広く信じられており、多くの語彙習得研究の入門書や、教員向けに書かれた書物に登場する。しかしながら、この命題を否定する実験結果を得ている研究も存在し（Papathanasiou, 2009 など）、必ずしも疑問の余地がないほどに強固な説というわけではない。

実験結果にばらつきが見られる要因は様々に考えられるが、本研究では、実験に使用される語群が持つ、形状の類似性に着目した。例えば Tinkham (1993) では、「意味的に関連のある語群」として金属名称（鉄、銅、スズ等）を使用しているが、これらは金属に関する素人にとっては、形状に実質的な差異を見出すことが難しく、その名称を記憶するのに困難が生じたとしても驚きはしない。この例は極端なものとしても、意味的に関連のある語群としてこれまで使用されてきたものには、丸みをおびたものが多い「果物」や、四つ足のものが多い「動物」、前開きで袖を通す形状が多い「衣類」等がある。このように意味的に関連するものをまとめた結果として、それらの単語が示すものの形状が類似することが少なくない。Baddely & Hitch (1974) 以来提示されてきたいくつかの心理学における記憶モデルに鑑みても、これらの類似性が記憶に不利に働く可能性は十分に考

えられる。このことから、これまで意味的関連性が記憶を阻害すると思われていたのは、実は実験に使用された語の一部が、形状が類似したものを示していたからではないかとの仮説を立てた。

この仮説のもと、以下のような3群の学習成果を検証した。

	意味的関連	形状的類似	例
語群1	なし	なし	「クリップ、スプーン、山」
語群2	あり	なし	「鶏、豚、ヘビ」
語群3	なし	あり	「地球儀、スイカ、ボール」

実験の結果、語群3は他のふたつの語群に比べて統計的に有意に学習成績が低いことが示され、記憶に不利に働く要因は、単語間の意味的関連性のものではなく、指示物の間にある形状的類似性であるとの仮説が支持された。実験の詳細については、Ishii (2015) を参照されたい。なお、発表者はこの仮説についてさらに多角的にデータを集め、検証を続けている。

参考文献

- Baddely, A. D. & Hitch, G. J. (1974). Working memory. In G. A. Bower (Ed.), *Recent Advances in Learning and Motivation* (Vol8, pp.47-89). New York: Academic Press.
- Ishii, T. (2015). Semantic connection or visual connection: Investigating the real source of confusion. *Language Teaching Research*, 19 (6) 712-722.
- Papathanasiou, E. (2009). An Investigation of ways of presenting vocabulary. *ELT Journal*, 63 (2), 313-322.
- Tinkham, T.M. (1993). The effect of semantic clustering on the learning of second language vocabulary. *System* 21, 371-80.
- Tinkham, T. (1997). The effects of semantic and thematic clustering on the learning of second language vocabulary. *Second Language Research*, 13 (2), 138-163.
- Waring, R. (1997). The negative effects of learning words in semantic sets: A replication. *System* 25, 261-74.